

「どんなに開発が進んでも、このルートは残すんだ」という管理者の気概を感じる、そんなコースが横浜の近郊にある。

横浜金沢コース  
神奈川県 No.6 JOA公認 No.6  
10 km 10 ポスト

## 伝統のコース

パーマネントコースの歴史は、埼玉県  
の元加治、高麗、越生の3コースが  
設置された昭和45年に幕を開けました。  
翌46年は一気に59コースが認定され、  
その後のオリエンテーリングブームの  
礎を築いていくこととなります。

今回紹介する「横浜金沢」コースも、  
この黎明期からOLファンの拡大の一  
翼を担った名門コースで、数多くのオ  
リエンティアに親しまれてきました。

90年に日本書籍より刊行された「たの  
しい野外教室3 オリエンテーリン  
グ」にも紹介されていることを御存知  
の方も多いでしょう。

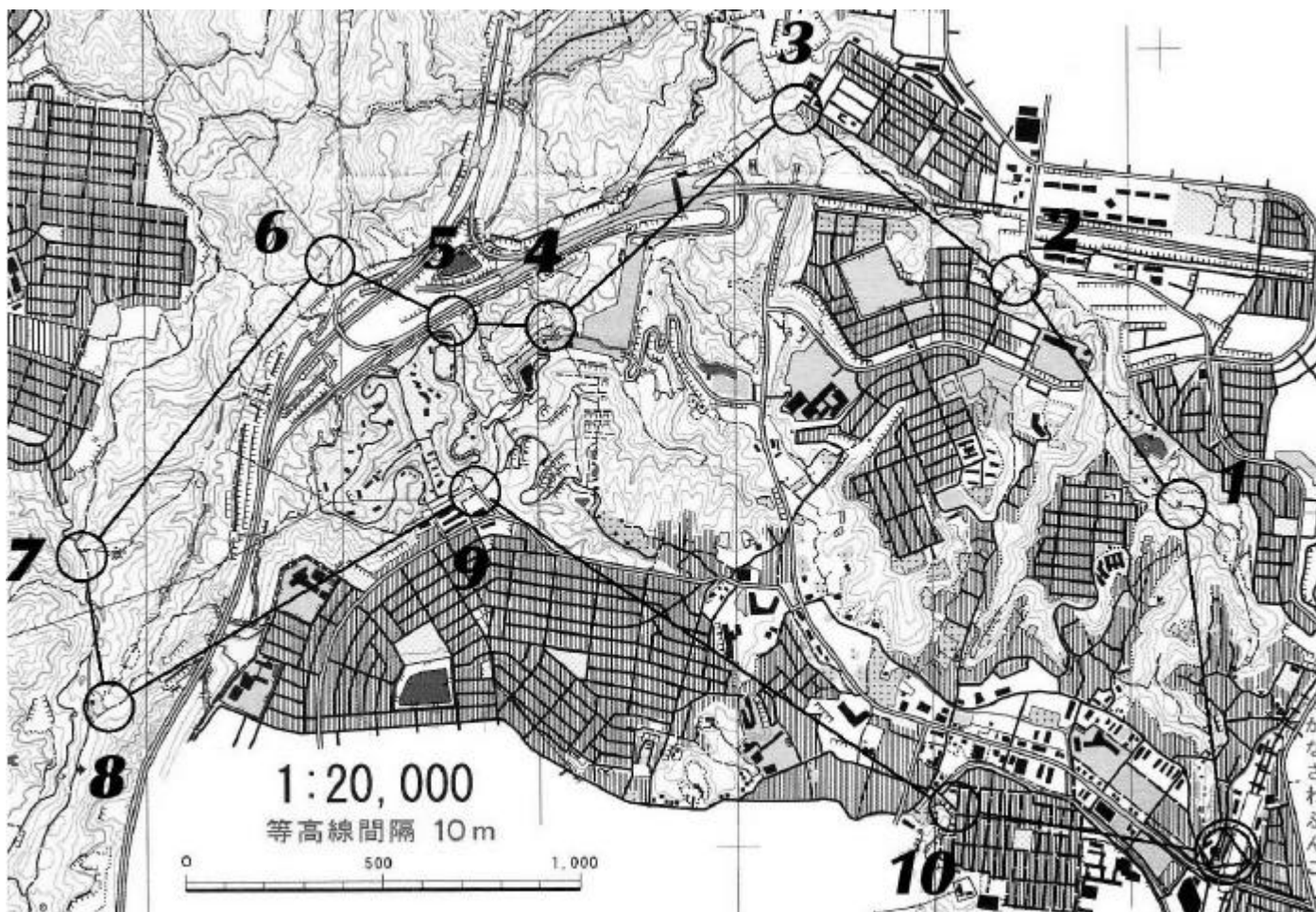
コースが設置されているのは、横浜  
市最南端の金沢区。開設当初は豊かな  
自然に恵まれた丘陵地帯が広がる一帯  
でしたが年々開発が進み、その姿を変  
えつつあるところです。新旧のマップ  
を比較しても、新たな自動車道が開通  
し、住宅密集地の拡大も顕著。この他、  
金沢自然公園の整備など、パーマネ  
ントコースにも大きく影響を与える造  
成が重なり、長らく休止状態にあっ  
たようです。

待望のマップ改訂は平成8年。その  
後、改めてコース整備がなされ、完  
全な形で再開されました。近所の  
大和市に転居したこともあり、今回  
は昭和57年6月の初踏破以来22年  
振りの再訪です。

## 人ごみの中でマップ写し

スタート地点は京浜急行「金沢文庫」  
駅西口。今回は階段の下にひっくり返  
っていた案内板は水路沿いにしっか  
りと設置されています。マスターマ  
ップも拡大地図に記されてはしっか  
り取れる状態でした。ただ、フェ  
ンスが手前にあり、転記にはやや  
難がありますが...。マップは改札  
口で扱っていませんので、駅員に  
申し出て入手してください。それ  
にしても駅前には引切りなしの  
人通り。コースを写し取るため  
に案内板に張り付いていると、否  
応なく「何してんの?」という通  
行人の視線に曝されます。

まずは住宅地を歩き始め、軽く足  
慣らし。遊歩道の基点には「六  
国峠入口」の道標が設置されて  
います。「六国峠ハイキングコ  
ース」と名付けられたこの遊歩  
道、すぐそばまで宅地が迫りつ



つも、その合間を縫って辛うじて残されているといった状況。しかし、市民に親しまれているルートと見えて、表面はツルツルに踏みしめられています。第1ポストは「能見堂跡」。17世紀に再興された地蔵院とのことですが、明治2年に焼失してしまい、いまは空地に石碑が残るだけ。ポストは石段下の道端に置かれています。

引き続きハイキングコースを歩いて行くと、木立に覆い被さるようにマンション郡がよっきりと姿を現します。層気楼でも見るかのような違和感を覚える不思議なポイントです。第2ポストは工事のために一時期撤去されていたこともありましたが、現在は東寄りに移設されて復活しています。住宅地に下る道との分岐にたたくポストは、難なく発見できるでしょう。

## コース管理者の気概

この先ほどなく、新造された横浜横須賀道路に差しかかります。かつての第2ポストが設置されていたこの一画は、上記書籍の中でも工事について触れられている通り、自動車道の造成に伴って遊歩道の架け替えが行われています。「どんなに開発が進んでも、このルートは残すんだ」という気概を感じる区間です。道路を超えても、遊歩道の北側にはすれすれのところまで住宅地が迫ってきます。第3ポストが置かれているのは、住宅地と遊歩道が一瞬間顔を合わせる曲がり角。目の前にある漏斗状の巨大な建造物は給水塔です。

開発から逃れるように再び森の中へと入るのも束の間、またまた自動車道路と対面。眼前には「釜利谷料金所」があり、金沢自然公園の駐車場へアプローチする道路が続いています。かつては尾根伝いに続いていた遊歩道は完全に飲み込まれてしまい、迂回ルートが道路に沿って新たに整備されています。遊歩道と言うよりも「通路」と言った風情。駐車場をぐるりと半周すると「金沢動物園」の正門に到達。平日のため、三角屋根の入口には人影はまばら。その脇から続く歩道に入り、動物園に沿って進むと、第4ポストの分岐点はすぐそこです。かつてのポスト位置からは北寄りに移されています。

## 湿地と木道の区間

ポスト間隔の最も短い第5ポストへは、湿地を渡る木道区間があります。ここへ差し掛かると人の姿が突然増え始め、学校の遠足と思われる一団まで出現。この先しばらく、集団の後ろに

付く形で歩くことに…。顎の上がる階段を登り切ると、そこは自動車道の釜利谷ジャンクション。旧第5ポストはこのジャンクションの真っ只中。当時は階段などなく、さらに続いていた湿地の横に置かれていました。現在は「側道」となった遊歩道沿い、やや見下ろす位置に変更されています。夏の盛りだったこの時は、首だけひょっこり顔を覗かせていました。

## ビートル？いやビーだった

コースはここまで、金沢文庫駅から続く「六国峠ハイキングコース」を忠実にこなして来ましたが、第6ポストで初めて別れることとなります。遠足の一団ともここでお別れ。第7、第8ポストへ通じる「ビートルズトレイル」と名づけられた尾根道への短絡ルートへと歩を進めます。ジャンクション内に通された区間は両脇をフェンスで囲まれ「通路」そのもの。平成19年3月までは、横浜環状南線の工事の影響で最短路が通行止めとなっている関係で、いったん「ひょうたん池」方面へと迂回することとなります。このあたりは小道が入り組んでいて、ルートチョイスの難しいところ。現在位置を見失わないよう、正確な地図読みを心掛けてください（私も失敗しました）。ポストは分岐にあります。工事終了までは出戻りでアプローチすることとなります。

ビートルズトレイルは理想的なハイキングコースで、起伏も少なく森林浴を堪能するには好適です。金沢区の隣、栄区庄戸の住宅地へ下るルートとの分岐の先に第7ポストはあるのですが、ポストの周囲には何やら幾つもの立て札が。「注意！ スズメバチの巣があります」。頭上を見上げると、その通り。立木に丸々とした特大の巣があり、巡回する蜂の姿も確認できます。相当高いところですので、刺激さえしなければ問題ないのですが、以前、岩手県の「宮古潮吹」コースで頭部を刺された経験があり、ここはそそくさと退散。

## ハイキング気分で一休み

そのまま尾根道を南へ下ると二股の分岐があり、左手を選ぶと「六国峠ハイキングコース」との分岐にある「関谷奥見晴台」に到達します。一休みするには打ってつけの空地があり、この時も数名のハイカーがやや遅めの昼食を楽しんでいました。第8ポストは「六国峠ハイキングコース」をわずかに下ったところで確認できます。

ハイキングコースを金沢文庫駅方面

に戻り、2つ目の分岐を右手に逸れて山を下ります。このコースの山間部はここで終了。何故階段にできなかったのかと思えるほど急な勾配の舗装道路を下った先は、釜利谷西の住宅地。西金沢中学校を回り込んで主要道路を駅方面へ。ほどなく「金沢動物園」の夏山口があり、管理用車両の出入口脇に第9ポストが置かれています。余談ですが、22年前に歩いたときは、マスターマップにポストの回り順が記載されておらず、結果として歩き始めたのは逆まわり。このポストに到達したとき、たまたま居合わせた公園の係員が「普通はこの上から降りて来るんだよ」と声をかけてくれ、逆にまわっていることに気づいたという思い出のあるところ。「この上から」というのは、当時はまだ動物園が整備されておらず、山を抜けるルートが健在で、現在のように住宅地を経由する必要がなかったのです。

## 一気に日常へ

最終ポストへは、これまでのハイキング気分は吹き飛ばしてしまいそうな、激しい交通量のある道路を歩くこととなります。これは、周回コースを考えるとやむを得ないところです。しばし我慢。どうしても排ガスが気になる方は、南の住宅地を抜けていくことも可能です。ポストは住宅地にある「釜利谷第四公園」の南端にあります。

汗をかきかきナップザックを背負って歩くには少々そぐわない都会的な街並みに変貌した駅周辺を最後は歩き、西口へと帰着しました。

並のコースなら、これだけの開発が進めばそのまま閉鎖に追い込まれてしまいそうところですが、今もこうして完璧な状態で存続してくれていることに、管理者の熱意を感じます。同じ京浜急行沿線にあった「三浦半島武山」の4コースが9月15日限りで廃止された現在、パーマメントコースの灯を消さないためにも一層存在感を増して行って欲しいコースです。

(2004年8月26日踏破 / 大高竜亮)